

平成30年度 事業報告

I 概要

会員減がここ数年続き、会員の確保が大きな課題となっております。平成30年度は、魅力ある企画が会員増につながると考え、部会員の要望に答えた各部の研修だけでなく、会員はもとより非会員の皆様にも多数ご参加いただける研修会・講習会の実施など、本会の魅力づくりに努めて参りました。その結果、会員数は前年度と比較すると0.6%の減に留まる2,143人となり、中でも新入会員は11.7%と高い水準となりました。これは、養成校での倫理講習会を継続して進めてきていることや大学生参加のフレッシュダイエティシャン研修会の昨年度評価とその改善を行った成果と考えられています。

食生活の重要性を普及啓発し公衆衛生の向上に寄与する事業（公益1）及び対象別に食と栄養の指導や支援を行う事業（公益2）では、公衆衛生の向上に寄与する（公益1）の事業では、多くの事業者より協力依頼があり、「出張栄養相談」事業は11項目にも増加しております。いずれも、栄養相談・骨密度測定・握力測定を組みあわせて行い、多くの参加者を得、県民の食からの健康づくりに貢献することができました。講演会等の講師依頼も増加傾向にあり、専門職集団としての役割を果たしております。また、JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）事業においては、国内における災害発生時に日本栄養士会及び愛知県からの要請に応じて機動性の高い栄養支援チーム（あいちD-DAT）の支援体制づくりや啓発活動が充実して参りました。

さらに、県民の栄養改善等に寄与するために専門職としての高度な技術を習得する機会を提供する（公益3）事業では、資質向上研修・講習会として、生涯教育研修をはじめ、実践に繋がるスポーツ栄養講座、在宅医療・介護研修会の充実を図って参りました。

特にスポーツ栄養には東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて関心が高まっており、スポーツ競技者への高度な指導ができる専門職として栄養士・管理栄養士の育成を図る講座には、多くの会員が受講しました。

また、在宅医療・介護においては国レベルで地域包括ケアシステムが推進されてきていることから、資質向上研修・講習会だけでなく、愛知県内11医療圏ごとに訪問栄養食事指導者を配置し、要請に対し速やかに応じるシステムを愛知県栄養士会として構築しました。これに高い評価を得て、杉浦記念財団より杉浦地域医療振興賞と褒賞金を頂くことができました。それを基に訪問指導に必要なグッズを揃え、今後の実践的な講習に活用できるようすすめております。

以下、平成30年度の事業活動について報告します。

II 重点項目

1 栄養ケア・ステーションの充実・強化

栄養ケア・ステーションに、「食育推進委員会」「在宅医療・介護委員会」「スポーツ栄養委員会」を設置し、円滑な事業運営を進めて参りました。今後は、地域の認定栄養ケア・ステーションとの連携により、地域活動の充実を図って参ります。

2 関係機関・団体との連携強化

関係機関・団体との調整・連携・強化を図り、各種の栄養改善事業を実施し、その専門性を活かすことにより公衆衛生の推進・向上に寄与しました。

特に在宅医療・介護においては、愛知県内 11 医療圏ごとに訪問栄養食事指導者を配置し、要請に対し速やかに応じるシステムを愛知県栄養士会として構築し、医師会はじめ行政、在宅医療サポートセンター等に幅広く周知を図りました。

3 組織強化対策

新規会員の入会を促進するために管理栄養士・栄養士の養成校を訪問するほか、継続会員の維持確保に努め組織の強化を図ってきました。会員増対策は自身の問題として、会員一人一人が職場や地域で積極的な勧誘活動を日常的に実施していただくよう引き続きお願いしました。

4 管理栄養士の設置要望活動

教育現場における「食育」を担う栄養教諭配置に加え、市町村における管理栄養士の新規・複数配置、特に介護予防対策等を行う高齢福祉部門への配置要望を進めるための検討を行いました。

5 会員の専門知識・技術の向上及び倫理観の醸成

会員の自己研鑽の場としての生涯教育研修会、各種専門的研修会・講演会を開催し、知識・技術の向上を図ると共に、会員以外にもその場を開放し、広く管理栄養士・栄養士の専門性を発揮できる体制づくりと栄養士の倫理観の醸成に心がけました。

6 社会情勢にあわせたスポーツ栄養への取り組み

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて関心が高まっており、スポーツ競技者への高度な指導ができる専門職としての栄養士・管理栄養士の育成を図るための講座を開講しました。